



◇秋田 政府の政策批判

秋田県の「さよなら原発 県民アクション」は秋田市 中通かいわいで、398回 目のデモ行進に16人が参加 しました。

福島切り捨て、国民の 声、安全無視で再稼働・新 設、核燃サイクルに固執す る政府のエネルギー政策を 批判。「原発ゼロは世界の 流れ。六ヶ所村再処理工場 を動かすな。女川原発再稼 働反対。原発よりもコロナ 対策を」とアピールし、コ ールや歌で「ウソつき、ご

◇山形 旧県庁前で訴え

第312回「幸せの脱原 発ウォーキング」が3日、 山形市内の文翔館前(旧県 庁)であり、8人がドライ バーに訴えました。

7月も引き続き第3金曜 日を除く毎週金曜日をスタ ンディング行動とし、19日 (日)午後2時から市内を デモ行進します。

まかし、買収みみれの原発 も安倍政権も、もういらな い」と訴えました。



東北電力秋田営業所前 で原発ゼロを訴える参 加者。3日、秋田市

で再開しました。385回 目です。

「さよなら原発」「原発 ゼロ」ののぼりを立て、「志 賀原発いらん」などと書い たパネルを掲げアピールし ました。

原発「いる」「いらぬ」 を問うシールアンケートも 実施。帰宅途中の高校生ら が次々とシールアンケート に応じました。両手に荷物 を持った男子高生が寄って

ない」と「わからない」に 投票しました。行動参加者 は、シールをしてくれた人 に原発の危険性を書いたパ ンフレットを渡しました。

◇北九州 コロナに負けず

北九州市のJR小倉駅前 では、「さよなら原発!北 九州連絡会」が、390回 目の行動をしました。コロ ナ禍のなか本格的な行動は 3カ月ぶり。参加者19人が 「原発いらぬ」とひととき わだきこコールしました。

北九州青い空合唱団の仲 間とともに歌声でアピール した美濃部恒子さん(73) は、「久しぶりに心を合わ せ平和や脱原発のメッセー ジを歌えてうれしい」と笑 顔。定期演奏会は中止、練 習は制限されていますが 「コロナに負けず、終息も 願いつつ、歌で訴えます」 と語りました。

日本共産党の高瀬菜穂子 県議、藤沢加代市議が駆け 付けました。高瀬県議は、 福島第一原発事故の汚染水 問題や国の核燃料サイクル

原発再稼働ストップ

文翔館(旧県庁)前で スタンディングした参 加者。3日、山形市



◇金沢 志賀原発いらん

北陸電力志賀原発(石川 県志賀町)の廃炉を求める 「どいね☆原発」は、新型 コロナの影響で自粛してい たスタンディングを金沢市 の金沢駅東口(兼六園口)

きて、「いらぬ」に貼っ てください。学校でエネ ルギー問題の学習をしまし た。3・11福島原発事故の 事を知り、原発は危険だと わかりました」と言いま えます。



女子高生2人組は「いら ぬ」の破綻を紹介し、九州に豊 富な再生可能エネルギーの 活用を強調、「安倍政権の エネルギー政策を根本から 変えていきましょう」と訴 えました。



合唱する北九州青い空合唱 団。3日、北九州市小倉北区

「原発なくせ」毎日訴え9年

大分島田さんの九電前スタンディング



大分市の九州電力大分支社 前で、2011年7月4日か らほぼ毎日、「原発いらぬ」 のフラカードを掲げて抗議す る島田雅美さん(73)の「毎 日スタンディング」が4日、 9年目を迎えました。通算で 3261日目です。

雨模様の中、この日午前10 時から九電前に立った島田さ んのもとに賛同する市民ら が 駆けつけ、「川内(鹿児島)、 玄海(佐賀)原発は廃炉に」 「子ども若者の未来を守る



◇福島・会津若松
汚染水を流すな

福島県会津若松市では407回目になる金曜行動スタンディングが、市内中心商店街の神明通りで、マスクをつけ、隣との距離を取る中で行われました。

思い思いに、横断幕やのぼり旗、プラスタを掲げた参加者は、通行人にあいさつしながら、原発訴訟の「被害者救済のための公正で正義あふれる判決を求め署名を呼びかけました。緊急事態宣言が全面解除されて人通りも増え、通りかかった60代の女性は署名しながら「福島県知事も県議会も、汚染水の海洋放出にはつきりした態度をみせないぞうただ、一体何を考えているのかしら」と不満げに話っていました。

◇茨城・取手
悔しさをバネに

茨城県取手市のJR取手駅前で、290回目の「原発取手駅前金曜行動」が取り組まれ、約10人が東海第2原発の廃炉を訴えました。同行動委員会が主催しました。



デモ行進する参加者＝10日、前橋市

◇群馬

「原発からの撤退を」の9年続け100回目。日本共産党の加増充子、小池悦子両市議も「再稼働を許さない声を上げよう」と呼びかけました。

参加者は、同原発再稼働の賛否を問う「県民投票案の例案」を否決した県議会を批判。佐藤真一さん(71)は「命に関わる条例案を一蹴され悔しい思いをした。たたかいはこれから」と力説しました。「県民世論で老朽化した東海第2を再稼働ストップに追い込もう」

「再生可能エネルギーを進め、きれいな地球を子どもたちに渡そう」などの訴えが続きました。

前橋公園前の出発式で、一番が福島第1原発事故の国と東電の加害責任を認め「群馬訴訟」の原告の1人の丹治杉江さんは「昨日、群馬訴訟の控訴審が結審しました。裁判で国は、事故当時は絶対的な安全は求められていなかった、などと主張しました。絶対に負けられません」と語りました。

前橋公園を出発したデモ隊は、沿道の人たちに手を振りながら前橋市内を行進。感染防止のためシニアレヒコールは行わず、宣伝カーの音声と、横断幕やプラカードなどでアピールしました。

日本共産党の店橋せつこ、伊藤たつや両衆院候補、酒井宏明県議が参加しました。

◇岐阜・大垣
訴え「命の限り」

岐阜県のJR大垣駅前前で400回目の「なぐせ原発」金曜行動が行われ、参加した14人が原発の危険性を記したプラカードを提示しました。新型コロナウイルスの影響で約1カ月間中断、再開後は少人数で行ってきました。



「原発なくそう」と声をあげる参加者＝10日、岐阜県大垣市

参加者は「原発なくそう」と一斉に声をあげ、原発事故が起きた場合の被害予測と原発ゼロ法実現のピラを配布しました。男子高生に「あなたたちのためにお年寄りの人たちが頑張っていますよ」と声をかけると、にっこりしながらピラを受け取りました。

元高校教員で代表世話人の河村秀一さん(75)は「生徒に原発の危険性を伝えてこなかったことを後悔する。命の限り、原発ゼロを訴え続けたい」と決意を新たにしました。

「原発なくせ三重県民会」は、津市のまん中広場で85回目の月例集会を行い、17人が参加しました。集会では「原発なくせ福島を忘れない」の横断幕や「原発いらない」のプラカードをかかげスタンディングでアピールし、パンジヨの演奏も行いました。

代表世話人の唐沢克昭さんは「来年3月で原発事故からの10周年になるが、福島原発は廃炉の見通しすら全く立っていない状況。三重県でも10周年を見据え、さらに運動を盛り上げていきたい」と語りました。集会に参加した70代の男性は「国は最近も石炭火力発電の規制の引き換えに原発をクリーンエネルギーという宣伝を行っており、原発に固執している」と話しました。

8月7日に86回目の集会を行い、拡声器でのスピーチも再開する予定です。

原発再稼働ストップ

核ゴミのツケ
次代に回すな

徳島

原発ゼロ徳島連絡会「先日、石炭火力発電所約100基を休廃止する」と報道された。この素の排出実質ゼロをめざしている。原発から抑制に消極的だとの世の撤退を決定してこそ

「原発は処理できない」「経済優先の社会から、人間の命と暮らしを守る政治に切りかえよう。原発のない未来へ」と呼びかけました。

◇三重
事故10年見えず

「原発なくせ三重県民会」は、津市のまん中広場で85回目の月例集会を行い、17人が参加しました。集会では「原発なくせ福島を忘れない」の横断幕や「原発いらない」のプラカードをかかげスタンディングでアピールし、パンジヨの演奏も行いました。

◇千葉

「福島返せ」唱和

「原発ゼロをめざす」金曜日行動「つながろう福島・いまずく原発ゼロへ！」（つながろう福島！チバでも実行委員会主催）は、千葉市のJR千葉駅前で402回目の宣伝を行いました。

参加者は、「子や孫に原発残せない」「老朽原発 東海第2 再稼働するな！」「プルトニウム増産許しません」などの手作りのプラカードを掲げました。タンバリンやドラムに合わせて「原発いらぬい」「いまずくゼロへ」「すべての原発再稼働反対」「福島かえせ」と唱和し、リレートークで道行く人たちにアピールしました。

宣伝を遠くから見ている男性（29）は「福島原発事故から9年もたつのに風化させないように頑張っているのはすごいですね」と話しました。

◇茨城

東海第2廃炉に

水戸市の日本原電茨城事務所前で370回目の「原発いばらき抗議アクション」



命と暮らし最優先、原発ゼロ実現を訴える参加者＝17日、秋田市

ン」が取り組まれ、約20人が集まりました。

参加者はマイクを握り、「再び原発事故が起きれば日本は終わる」「故郷を奪う原発は二度と動かしはけない」と東海第2原発（東海村）の再稼働ストップを強く訴えました。

「福島県の青年グループが汚染水の海洋放出に反対するデモに取り組み元気づけられた。命がけの電気はいらぬという声を広げよう」などとスピーチが続きました。

◇秋田

8年続け400回目

秋田県の「さよなら原発県民アクション」は、秋田市中通かいわいで31人がデモ行進。8年前から続けてきた行動はこの日で400

回になりました。

参加者は、避難を余儀なくされている多くの被災者、事故収束の見通しも立たない福島の実情を無視し、再稼働・新設を進める安倍政権を強く批判しました。世話人の一人である鈴木政隆さんは、原発の政策破綻を明確にし、野党の原発ゼロ法案の国会提出につながった世論と運動の力を強調。「福島を忘れず、事故を二度と起こさないため、原発ゼロ実現まで声を上げ続けよう」と元気よくコールや歌で訴えました。

◇岩手

汚染水を流すな

「盛岡でもデモし隊☆」は盛岡市で、脱原発を求めると7回目のデモ行進をしました。20人が参加し、「原発は『核のごみ』を出す」などと元気にコールしました。

マイクを握った40代の男性は、福島県民は大震災と原発事故、新型コロナという三重の打撃を受けており、さらに汚染水の海洋放出を強行するのは許せないと批判。参加者からも「そうだ！」の声が上がりました。

原発再稼働ストップ



シールアンケートに応じる高校生＝17日、金沢駅東口

◇石川

反原発アピール

石川県志賀町の北陸電力志賀原発の廃炉を求める「どいね☆原発」は、金沢駅東口（兼六園口）で387回目のスタンディングと原発「いらぬい」「いらぬい」を問うシールアンケートを7人で実施。「さよなら原発」「原発ゼロ」ののほりを立てアピールしました。



雨の中をデモ行進する参加者＝17日、奈良市

は安全と宣伝しているが、あちこちの原発をネットでも調べたら、安全でないことがわかったと述べ「いらぬい」にシールを貼りました。

◇奈良

コールして歩く

396回目の「脱原発奈良でも行動」が奈良市のJR奈良駅前でありました。小雨が降る中、コール担当者が「青森県の六ヶ所再処理工場が長期にわたり核廃棄物を不適切に管理し、その是正がされないまま、新処理基準に適合の決定がされようとしている」と情勢を報告。参加者は関西電力奈良支店前まで「原発いらぬい」とコールして歩きました。

◇香川

原発ゼロ法こそ

高松市では「原発をなくす香川の会」などが、百貨店前でスタンディングし、四国電力本店前でリレートークしました。

参加者は「核廃棄物の処理を先送りすることは万一の時の被害を拡大することになる」「電力は足りており、自然エネルギーに転換することが大事だ」と廃炉への思いを語りました。参加した井上のおみさんは「野党共同で提案した原発ゼロ法案が、一度も審議されていないのが問題だ」と思っています。電力で働く人たちも、声をあげてほしい」と話しました。スタンディング中、自転車を止めて激励する女性もいました。



◇新潟
繰り返さぬため

なくそう原発・新潟市民ネットは、新潟駅前で19人が参加して374回目の行動をしました。この日で8周年。今までの活動や写真を紹介した記念リーフを作成して参加者に配布しました。2012年7月からの延べ参加人数は7329人になりました。

マイクを握った参加者は、「原発は防潮堤など津波対策をしているとCMが流れているが、津波以外の複合災害に対応できる保証はない」「私が行動し続けて



いる理由は、福島第1原発事故の時に新潟から逃げたいと思った恐怖と、原発事故が起これば何が起きるか知っていたのに何も行動していなかった悔いです。繰り返さないために行動し続けたい」と訴えました。事務局から、なくそテ原発集会の代わりに、9月6日午後2時から県内外の市民団体が各地でスタンディングをしてネット配信をすると報告がありました。恒例の替え歌を歌った後、デモ行進しました。

◇滋賀
琵琶湖を守って

393回目の原発なくせ行動が大津市でありました。JR膳所(せせ)駅前

から関西電力滋賀支社前でパレードし、「琵琶湖を守れ」とコールしました。ばいばい原発・守ろうびわ湖住民運動連絡会の井上敏一さんは、「原発もコロナも人命と暮らしに関わる問題。無責任な政策を転換させなければ」とあいさつ。民主青年同盟滋賀県委員長岡田太貴(ひろき)

◇奈良
参加しつづける

「脱原発奈良でも行動」が、奈良市のJR奈良駅前でありました。コール担当者が、今回は397回目、いろんな条件があっても参加し続けている人のおかげと感謝の意を述べ、原発をめぐむ情勢を報告して出発。「原発いらない」「原発とめろ」「再稼働反対」とコールしながら関西電力奈良支店前まで歩きました。

毎回車いすで参加する加藤一人さんは、「車いすを押ししてくれる人がいるから参加し続けることができます」といいます。押ししている奈良市在住の男性は、「一人暮らしなので健康のために参加し始めました。原発は必要ありません。せひ若い人も参加して車いすを押ししてほしい」と話しました。

◇徳島
汚染水放出ノ

「原発再稼働反対! 徳島有志の会」は、JR徳島駅前で414回目の行動をしました。

徳島市の尾華優博さん(70)は、東京電力などが狙う福島第1原発事故で発生した放射能汚染水の海洋放出計画を批判。「東京電力に汚染水タンクを管理させてこそ、事故の責任を認識させ続けることができる」と呼びかけました。市内の横山良さん(76)は

「GO TO トラベル」キャンペーンの迷走は、安倍政権の国民の命と暮らしをかえりみない姿勢を明らかにしたとのべ、「原発に対する安倍政権の態度も同じだ」と訴えました。四国電力徳島支店へ向けデモ行進していると、車

の窓をあげ大きく手を振る男性など多くの声援が寄せられました。「頑張ってください」と声をかけてきた市内の女性(56)は、「原発事故は立場の弱い者を犠牲にした。戦争と同じだ」と怒りの気持ちを語りました。

◇宮崎市
雨の中400回目

宮崎市の原発再稼働反対ウォークは、「さよなら原発! 宮崎ネット」の主催で400回目の行動でした。時折強く降る雨の中、県庁前から九州電力宮崎支社前まで歩き、市民に原発の廃止を訴えました。

出発前やデパート前交差点で参加者らは、「コロナ禍でもし原発が事故を起こせば、避難などどうしようもなくなる。ましてや地震・火山国の日本では原発は



繁華街で原発廃止を訴える参加者。24日、宮崎市

危険すぎる。事故を起こす前にやめてもらおう」「オリンピックは福島の実態をアンダーコントロールだとごまかして出発したのも。無責任なトップのいる国で被害を受けるのは私たちだ。必ず原発をやめられる日は来る。その日まで粘り強く声をあげ続けたい」と訴えました。

金曜行動 7月31日

◇青森

「核燃いらない」

417回目となる「原発なくそう！核燃いらない！」と声をあげる参加者。青森金曜日行動が、青森市の駅前公園でありました。

ボツボツと雨が落ちる中、参加者たちがリレートーク。原子力規制委員会が、同県六ヶ所村の使用済み核燃料工場の適合審査合格を出したことへの怒りの声であふれました。日本共産党から参加した



「原発なくそう、核燃いらない」と声をあげる参加者。7月31日、青森市

吉原洋興議は、再処理工場では放射性廃棄物を19年間不適切な場所に保管するなど安全文化も根付いていないと強調。「動かす合理的な理由は、もはやない」と訴えました。

マイクを握った参加者も日本原燃の資質を批判し、「私たちの安心安全が勝手に決められている」「ダメなものダメと声をあげて、変えていこう」と市民へ呼びかけました。

◇岐阜・各務原

汚染水を流すな

岐阜県各務原市では403回目の「さよなら原発」行動がありました。新型コロナウイルスの影響で4カ月間中断し、7月3日から再開して5回目です。

参加者全員が一言スピーチしました。世話人の水野香織さん、九条の会の足立時男さん、年金者組合の河田博さん、さよなら原発の宮部芳秀さんらが「放射能汚染水を海に流すな」「コロナ終息後は原発のない新しい社会へ」などと訴えました。



「放射能汚染水を海に流すな」などと一言スピーチする参加者。7月31日、岐阜県各務原市

原発再稼働ストップ



丸8年を迎えた毎週金曜日の「原発再稼働ストップ」7月31日、松山市

◇奈良

ちようちん掲げ

「脱原発奈良でも行動」が奈良市のJR奈良駅前でありました。398回目です。

17人の参加者が思い思いのプラカードや提灯（ちようちん）をかかげて、「原発いらない」とコールし、関西電力奈良支店前までデモ行進しました。この日のコール担当2人のうち、1人は奈良民商事務局員の上杉晴美さんで初めての体験です。

もうひとりとは日本共産党奈良県委員会勤務員の山下浩利さん。「もうすぐ400回になるので、今回も途切れずに皆さんが集まってくれてよかったです」と話します。行進後の交流会では、六



◇兵庫・姫路

毎週行動400回目

ケ所再処理工場が新基準に「適合」決定されたことに抗議の声をあげていくことも必要だと意見がありました。

兵庫県姫路市では、400回目の関西電力姫路支社前抗議行動がありました。脱原発はりまアクションの会が主催し、2012年7月13日から毎週に取り組んできました。



脱原発をアピールする人たち。7月31日、兵庫県姫路市

参加者は「老朽原発は命を危うくする」「子どもたちの未来を奪う」とスピーチし、老朽原発の再稼働反対、原子力発電からの撤退を訴え、「関西電力原発やめる」「ボンコッ原発動かすな」「ワイロより廃炉」などとコールしました。

日本共産党の太田清幸衆院兵庫11区候補は、播磨地域の原発建設計画を阻止してきた住民のたたかいを紹介し、原発をなくす決意を表明しました。

20人が参加し、支社前での抗議後、姫路駅前脱原発を訴えました。

◇愛媛

「伊方を廃炉に」

愛媛県では、「誰でも参加でき、遅れてくるのも途中で帰るのも自由！原発廃炉の思いを県民に訴えよう」と、1回も欠かさず、雨の日も風の日も松山市で

続けてきた「伊方原発を止めよう！県庁前行動」が丸8年を迎え、419回になりました。2012年7月27日から毎週金曜日午後6時〜7時半まで、愛媛県庁前取り組んできました。参加者は

「伊方原発をただちに廃炉に」の横断幕を掲げ、歌やコールで県職員や県民にアピールしました。伊方原発をとめる会会員の加藤廣志さんは、伊方3号機のフルサーマル運転はとりわけ危険性が高いと力説。「使用済みMOX燃料は、ある程度冷えるまで300年もかかる。その間に冷却プールが地震や津波、火山灰で壊れたり、老朽化によるひび割れなどで水漏れを起こすとMOX燃料が再臨界となる」と述べ、廃炉を訴えました。